

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	AGU Fall Meeting 2022 への参加と研究発表
氏名 Name	重光 勇太郎
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	工学研究科・都市社会工学専攻・博士後期課程 2 年
渡航国 Country	アメリカ
渡航日程 Travel schedule	2022年 12月 9日 ~ 2022年 12月 19日

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

申請者は、地球科学分野で約 3 万人が集まる最大規模の学会、AGU (American Geophysical Union) Fall Meeting 2022 に参加し、審査通過済みである 1 件の口頭発表を行う。口頭発表では、2018 年に発生した大阪北部地震による地表変動と地下水位変化の相関性に関する研究成果について発表を行い、世界中から集まる研究者と広く議論を行うことを期待する。学会はメインの平日の 5 日間と、前後の土日の科学ワークショップ等のイベントが開催される 2 日間の計 7 日間開催される。平日 5 日間の内、1 日は研究発表を行い申請者の研究を推し進め、4 日間は他の研究者の研究発表を聴講し積極的にコミュニケーションを図って上記の渡航目的を達成する。また、前後土日の科学ワークショップへ参加し、世界中の若手研究者と交流しつつ専門分野に関わる知見を深める。また、申請者は海外の研究室への留学し現在開発を進めているドローン SAR について共同研究を行うことを検討しているため、対外的に自分の研究を積極的にアピールする。

成果 Outcome

学会開幕前の休日に開催された若手研究者の交流イベントに参加し、多数の参加者と連絡先を交換した。イベントでは参加者同士の交流が進むようなゲームが催された。参加者にそれぞれ 2 枚のトランプが配られ、何かしらの方法で参加者同士がトランプを取り合い、ポーカーの役をそろえるという内容である。出身大学や研究内容、趣味など互いに簡単に自己紹介を行い、多数の参加者と仲を深めた。参加者の中には、交流後に発表を聞きに来てくれた人もいて、結果的に自分の研究に関心をもってもらった良い機会となった。

申請者の口頭発表は開幕 2 日目の午後に行われた。口頭発表にはおよそ 25 人の聴講者が集まり、約 10 分間発表を行った（写真）。時間の都合上、申請者への質疑応答は行われなかったこと

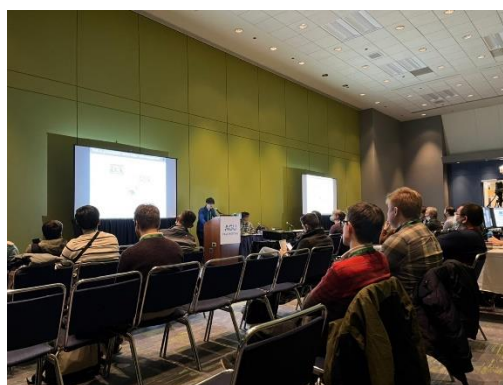


写真 申請者の口頭発表の様子

ことは残念であったが、発表中のスライドを撮影し熱心にメモを取る聴講者が散見され、申請者の研究に興味をもってもらえたと考えられる。英語を用いた対面の口頭発表は対外的には初の体験でありいつになく緊張したが、このような大舞台であっても発表が始まってしまうと平常心でいられたというのが申請者の感想である。一方、申請者の前後の他研究者の発表において、申請者のものと同じ手法で行った研究発表を初めて聞くことができ、これまで推し進めた研究の方向性について自信を得たと同時に、機械学習などの他手法との融合や手法適用エリアの拡張性について学ぶことで手法の改善について再考するきっかけとなった。

また、発表日以外には他研究者のポスター発表において積極的に質問を行い、自分の研究内容を含む様々な議論を行った。その中で、アラスカ大学の方が自分の研究に興味を持ち、2023 年の留学を検討して頂ける結果となった。他にも、日本国内の企業の方とご縁があり、面談の機会を頂けることとなった。以上のように、自分の発表外でも様々な形で多くの研究者と交流可能な大規模な学会ならではの醍醐味を味わった。

今後の展望 Prospects for the future

2023 年にはアラスカ大学を候補として海外での共同研究先を決定し、ドローン SAR の研究開発を推し進める予定である。また、次の国際学会では今回得られた知見と経験をもとに、より多くの研究者とディスカッションできることを期待する。